

カラマツサンドライ材の 生産について

岩村田・浅間製品事業所 ○山本 輝雄
事業課・生産係 荒井 春男
販売係 上原 一義

はじめに

カラマツサンドライ材生産については、昨年度の調査において梅雨明け後の適期に葉枯らしによる乾燥処理を行えば、カラマツについてもスギ・ヒノキと同様の効果が期待できることが実証された。今年度は更に適期の拡大を図るために、春先の芽吹きを利用した乾燥効果について調査した。また、サンドライ材について現場や業者等の意見を聴取したのであわせて発表する。

1 調査方法

- (1) 調査は浅間山国有林27い林小班で実施した。(表-1参照) この林況は、81年生の二段林で、上木はカラマツ、下木はヒノキで、平均胸高直径40cm、平均樹高22m、haあたりの材積は265m³の林分である。なお標高は1080mで南向きの斜面である。
- (2) 芽吹きによる乾燥処理期間は3月7日から5月10日までの65日間で、処理方法は昨年度と同様に伐倒直後に梢端から1/3程度の生枝を残し、乾燥処理を行なった後に含水率を測定した。

表-1 調査地の概要

国有林名	林小班	林齢	伐採種	\bar{D}_{cm}	\bar{H}_m	蓄積	方位
浅間山	27い	81	皆伐	40	22	265	S

2 含水率の変化

- (1) 表-2は、今回の芽吹きを利用した乾燥効果と、昨年度梅雨明け後に行なった乾燥効果が実証されたものとを比較対比したものである。昨年度梅雨明け後に55い林小班で行なったものは、伐採時の含水率(処理

前含水率)は86%であったが、梅雨明け後の葉枯らしによる乾燥処理後の含水率は47%となり、39ポイントの大きな減少となっている。一方芽吹きを利用した方法では、伐採時の含水率は78%であったが、処理後は57%と21ポイントの減少にとどまっている。

- (2) この原因としては試験地が複層林であったため、伐倒作業の際枝が保残木に触れて折れてしまったことに加えて、材を移動した際枝が折れてしまいほとんどの枝がなくなってしまった為と考えられる。今後、試験を行なう際は枝をあまり折らないように充分配慮する必要がある。

表-2 含水率の変化

林小班	伐採時期	処理前	処理後	減少率	重量減少率
27い	(平成2年3月) 開芽前	78	57	21	12
55い	(平成元年7月) 梅雨明け後	86	47	40	21

3 サンドライ材の評価について

- (1) サンドライ材の評価については、生産現場およびサンドライ材を使った業者から聞き取り調査を行い長所・短所に表-3のとおりまとめた。
- (2) 長所については、生産現場では材が乾燥により軽くなり集材が楽になった。また、木材業者からは同様に材の運搬が容易になったと評価している。製材業者からは冬場の製材の場合は、サンドライ材は乾燥しているため、一般の材より凍りにくく製材しやすいことや、製材した材面に赤味と艶が出ると評価されている。
- (3) 短所としては、生産現場では伐倒した後、材が重なったまま乾燥してしまうと曲りが直らなくなることや、枝が固くなって枝払が困難になるという声があった。また、サンドライ材生産箇所と普通材生産箇所とが離れているときは、トラクターや機械類の移動が多くなり生産量がダウンするという指摘があった。木材業者からは小径木は主に杭丸太等の土木用材に利用されており、これらは生木の方が好まれることから、乾燥したサンドライ材はその用途に適さないという指摘があった。同様にパルプ材も皮の剥きやすい生木の方が好まれることが明らかになった。
- (4) 以上のことからサンドライ材生産にあたっては、生木が好まれる杭丸

太・パルプ用の材の占める割合の少ない大径木を中心に生産を行なう必要がある。

表・3 サンドライ材の評判

	長 所	短 所
生産現場	1. 材が軽く集材が楽。	1. 伐倒後材が曲がったまま重ねておくと、乾燥処理後曲りが直らなくなる。 2. 枝払いが困難になる。 3. 作業工程がダウンする。
木材業者	1. 材が軽く運材が楽。 2. 冬場の製材は、一般の材より凍りにくく挽きやすい 3. 製材した材面に赤味と艶がある。	1. 杭丸太用材、パルプ・チップ用材には生木の方が適している。

4 サンドライ材の用途について

- (1) 製材業者への聞き取り調査の中で、スギ・カラマツのサンドライ材は色艶が良くなるという評価があったので、サンドライ材の用途としてはカベ材等、人の目に付くところでの使用を増大させてゆく必要がある。
- (2) 方法として製材所を持った建築業者に試験的にサンドライ材を提供してみれば、そのデータ-をすぐに得られると考える。

おわりに

来年度以降の取組としては、芽吹きを利用したサンドライ材生産の適期拡大を図るため再度チャレンジしたいと考える。また、サンドライ材のメリットを把握するため、直接建築業者への売り込みを図り、数多く使用していただくなかでその評価の確立に努めて行く必要があると考える。